## 第四欄(iv) 発明者である旨の申立て(米国を指定国とする場合)

申立ては実施細則第214 号に規定する以下の標準文目を使用して作成しなければならない。第四網と同綱G)〜(v)の偏考の総論部へ 1551990 及び本質に持有の事項について第四網Gv)の偏等を参照。この網を使用しないときは、この用紙を顧客に含めないこと。

## 発明者である旨の申立て(規則 4.17(iv)及び 51 の 2.1(a)(iv)) (米国を指定国とする場合)

私は、特許請求の範囲に記載され、かつ特許が求められている対象に関して、自らが最初、最先かつ唯一の発明者である(発明者が1名しか記載されていない場合)か、あるいは共同発明者である(複数の発明者が記載されている場合)と信じていることを、ここに申し立てる。

	一般でする。 ある日、 とはらくないのことを、ここに中し近くる。
本申立ては、本書がその一部をなす国際出願を対象としたものである。	5 (出願時に申立てを提出する場合)。
本申立ては、国際出願 PCT/	を対象としたものである (規則 26 の 3 に従って申立てを提出する場合)。
私は、特許請求の範囲を含め、上記国際出願を検討し、かつ内容を選上記出願の願敬において主張する優先権を特定し、かつ、「先の出願」	理解していることを、ここに衰明する。私は、PCT 規則 4.10 の規定に従い、 という見出しの下に、出願番号、国名又は世界貿易機関の加盟国名、出願日、 ている PCT 国際出願を含め、終生物をご思えるよりでの出版日と、別述の
先の出願:	
私は、連邦規則法典第 37 編規則 1.56 (37 C.F.R. § 1.56) に定義され こに承認する。さらに、一部継続出願である場合、先の出願の日から一 いて開示義務があることを承認する。	た特許性に関し重要であると知った情報について開示義務があることを、こ 部継続出願の PCT 国際出願日までの間に入手可能になった重要な情報につ
吸心に亟向の除止などで17つに微音は、米国法典第 18 編第 1001 <b>条</b> に基	と信念に関する陳述が真実であると信じることをここに申し立てる。 さらに、 いき、
氏名: 井上 一知	
住所: 京都市 京都府 日本国 (都市名、米国の州名(該当する場合)又は国名)	
郵便のあて名: 〒606-8507 日本国京都府京	京都市左京区聖護院川原町53
京都大学再生医科学研究所内	
国籍: 日本国 Japan	
発明者の署名: 井上 一知	B付: 22. 08. 03
(国際出願の願書に発明者の署名がない場合が、規則 26 の 3 に基づいて国際出願の出願後に申立ての補充や追加がなされた場合。署名は代理人ではなく、発明者のものでなければならない。)	(国際出願の願客に発明者の署名がない場合や、規則 26 の 3 に基づいて国際出願の出願後に申立ての補充や追加がなされた場合)
	·
<b>麗</b> 麗 元駿	
京都市 京都府 日本国	
住所: 一次 日か 日本	
	都市左京区聖護院川原町53
京都大学再生医科学研究所内	
<sub>国籍:</sub> 中国 China	
発明者の署名: 顧 元駿	月付: 22. 08. 03
(国際出願の願むに発明者の署名がない場合や、規則 26 の 3 に基づいて国際出願の出願後に申立ての補充や追加がなされた場合。署名は代理人ではなく、発明者のものでなければならない。)	(国際出願の願むに発明者の署名がない場合や、規則 26 の 3 に基づいて国際出願の出願後に申立ての補充や追加がなされた場合)
✓ この申立ての続楽として「第V回欄(iv)の続き」がある	





## 第四欄(j)~(v)の続き 申立て

第哩欄( $\hat{u}$ )〜(v)の紙面が不足する場合(同欄(v)において2人以上の発明者を記録する場合を含む)、「第哩欄…( $\hat{u}$ )〜(v)の番号を記載)の続き」としたうえ、当該申立てと同様に必要事項を記載する。2以上の申立てにおいて紙面不足がある場合、それぞれに別々の欄を使用する。この追記欄を使用しないときは、この用紙を顧事に含めないこと。

第呱欄 (iv) の続き

氏名 角 昭一郎

住所 京都市 京都府 日本国

郵便のあて名 〒606-8507 日本国京都府京都市左京区聖護院川原町53 京都大学再生医科学研究所内

国籍 日本国 Japan

発明者の署名 角 昭一郎 日付 22.08.03